



保護者アンケートの結果について

冬季休業前にお願いした「学校の取組に関するアンケート」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。98.5%のご家庭からご意見をいただくことができました。ご多用のところ、たくさんの保護者の方々からご協力をいただきことに感謝申し上げます。

調査結果については、教職員による学校評価（自己評価）の結果や、子どもたちを対象にした学校生活アンケートの結果などを踏まえ、成果と課題について全教職員で話し合い、今年度中や次年度の教育活動に反映させることができるようにしていきます。

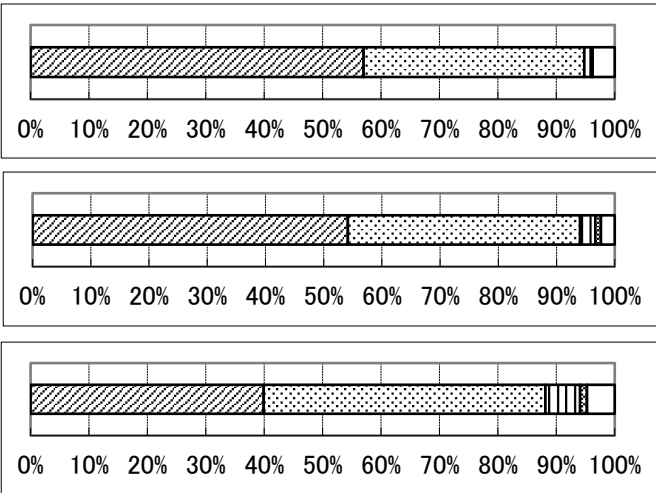
また、学校評議員や教育後援会、PTA三役の方々からもご助言をいただきました。これらをもとに、家庭と学校との連携を一層密にするとともに、子どもたちの「自律」につながる取組が一層充実するよう、今後も教育活動に励んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【回答数】「Ⅰ・Ⅱ」：452世帯（回収率 98.0%）、「Ⅲ・Ⅳ」：540世帯（回収率98.5%）

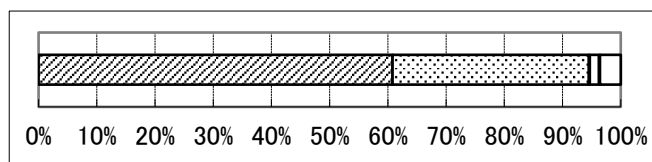
A	B	C	D	
そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり 思わない	思わない	無 答

Ⅰ 学校全体の取組について 「学校は……」

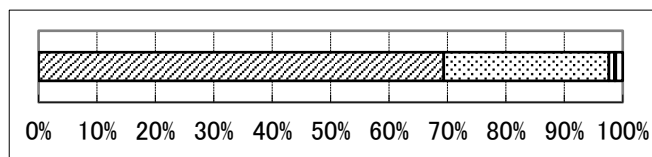
- 1 学校教育目標「自律」や目指す子ども像に向かい、様々な教育活動に積極的に取り組んでいる。
- 2 学校行事（はとの子運動会、修学旅行、校外学習等）をはじめ、様々な活動を通して、子どもたちが意欲的に活動できるよう指導・支援している。
- 3 子どもたちの学校生活の様子をしっかりと見守り、いじめのない学校にしようと努力している。



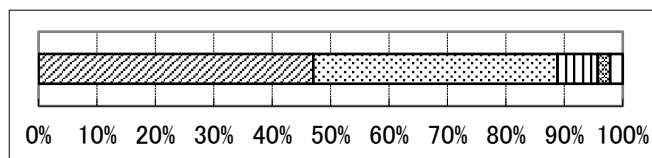
4 附属四校園の連携・交流活動（幼稚園とのなかよし活動，中学校との交流学习への参加，特別支援学校とのよつば学習＜障害理解教育＞）を積極的に行い，附属学校全体で教育の充実に取り組んでいる。



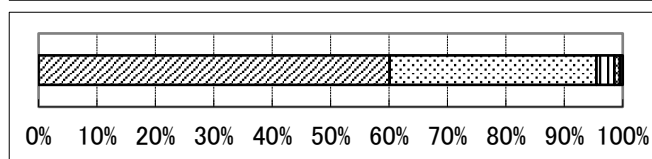
5 避難訓練，防犯訓練，感染防止対策，緊急メール等を整えるなど，子どもの安全を守るために様々な取組を行っている。



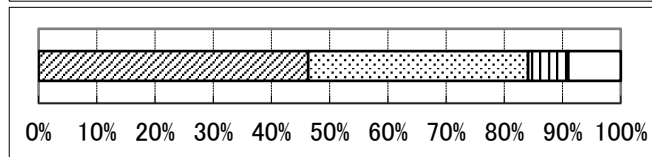
6 夏季休業前の「保護者面談」をはじめ，子どものことでいつでも先生方と相談できる体制が整っている。



7 校報「はとの子だより」や「のびのび通信」，学年通信，保健だより等の各種通信やホームページやオンライン等を通して，学校や子どもたちの活動の様子を伝えている。



8 授業研究会（オンライン）等を通し，学校の取組を広く発信する努力をしている。



【結果の分析と今後の取組の方向】

I について

AB合わせた評価は、8項目とも昨年度並みの数値でした。

項目3「いじめのない学校づくりに向けた努力」と項目8「学校の取組の発信」については、いずれもA評価が昨年度から8ポイント程度の減少が見られました。

○項目1「学校教育目標の具現に向けた積極的な取組」については、A評価が4ポイント程度の微減という結果でした。学校報やホームページの「ニュース&トピックス」などの場で子どもたちの成長ぶりを紹介してきましたが、子どもの育ちを判断する規準について、家庭との共通理解を一層深める必要を感じたところです。例えば「本校で育てたい資質・能力」は、保護者にもその意図がより分かりやすく伝わるよう、精査を試みています。

○項目3「いじめのない学校づくりに向けた努力」については、項目6「保護者との相談体制」と並び、依然としてAB合わせた評価が低い状況にあります。組織としての取組の質を一層高め、学校の取組について家庭からの理解をいただけるよう努力していきます。

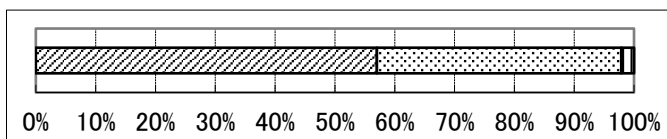
○項目4「障害理解教育の充実」については、特別支援学校との連携を密にして取組を推進していることに対し、家庭から理解を得ているものと捉えました。発達障害や認知機能の問題に関する家庭の関心が高まっていることから、教員研修の機会を増やし、適切な対応を図ることができるようにしていきます。

○項目6「保護者との相談体制」については、時間を問わず組織としての迅速な対応を心がけてきましたが、家庭からの要望が多様化している状況に、十分な対応を図ることができるよう努力を継続していきます。項目3にもつながることですが、日々の授業実践を通して子どもたちの満足感と子ども同士のつながりを良好なものにし、問題解決的な姿勢の前に未然防止に務めることができるよう、教職員の意識向上に努めていきます。

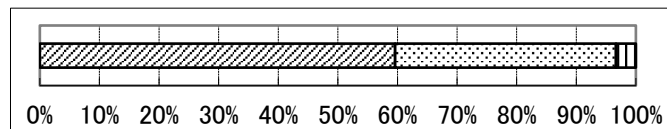
○項目8「学校の取組の発信」については、オンデマンドとオンラインのハイブリッド方式による公開研究協議会の実施や、オープン研修会の対面開催を復活させるなどの取組を通して、多数の参加をいただきました。来年度は、本校の教育理念により一層即した開催時期や開催方法について見直しを図り、前例にとらわれない挑戦を継続していきます。

Ⅱ 保護者の意識について 「自分は……」

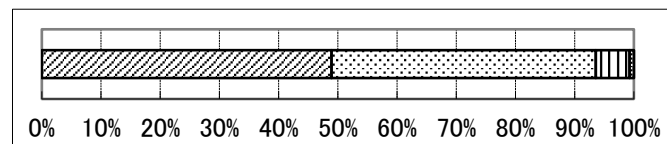
- 1 学校の教育方針や活動について、関心をもっている。



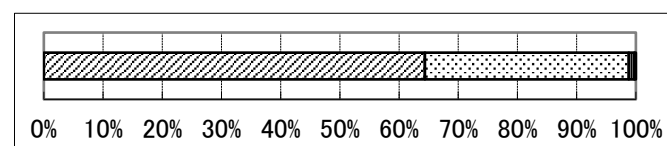
- 2 学校からのお便りや連絡プリント、緊急メールをよく読んでいる。



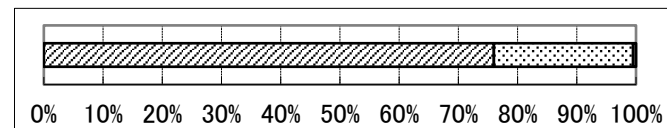
- 3 PTA活動（参観日、懇談会、事業部の行事等）に進んで参加し、協力している。



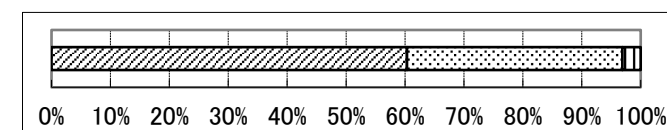
- 4 家庭での規則正しい生活が、子どもの学校生活を支えているということを意識して、子どもにかかわっている。



- 5 学校の登下校の約束（徒歩または公共の交通手段で）をきちんと守らせている。



- 6 家庭で、子どもと学校のこと（学習、出来事、友達、先生等）をよく話題にして会話している。



【結果の分析と今後の取組の方向】

Ⅱについて

AB合わせた評価は、6項目とも昨年度並みの数値でした。

項目5「登下校の遵守」はA評価が昨年度と同様に高い結果となっている一方で、項目3「PTA活動への協力」ではA評価の数値が昨年度よりは7ポイント程度回復したものの、依然として50%を切っている状況です。

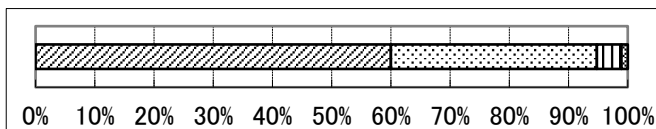
○項目1「学校の教育方針への関心」、項目4「家庭での規則正しい生活」は、昨年度と同様に100%に近い数値であることから、学校への期待の大きさと連携への高い意識を改めて感じています。これに慢心することなく、期待に応えることができるよう教育活動の質の向上を目指していきます。

○項目5「登下校の約束」も100%に近い数値でした。今年度は、近隣住民からの苦情件数も減少傾向にあることを感じており、挨拶のよさについて評価をいただくことも増えました。一方で、バスの乗車マナーについては、厳しいお叱りをいただくことが何度もあり、バス停での下校指導や校外生活指導部による巡回指導等を通して、今後も啓発に努めていきたいと考えています。

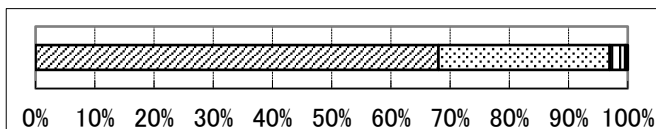
○項目3「PTA活動への協力」については、コロナ禍の諸制限を段階的に緩和してきたことから、いくぶん活況の様相を示しています。来年度は総会も含めて対面での開催を予定しており、保護者の方々が協力したくてもできない状況からできるだけ早期に脱却できるものと期待しているところです。

Ⅲ 教職員の取組について 「先生は……」

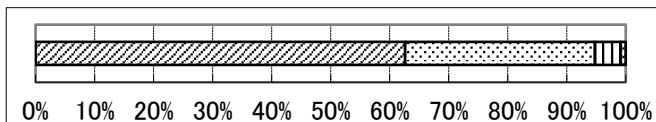
1 子どもの悩みやトラブルに対して親身になって対応している。



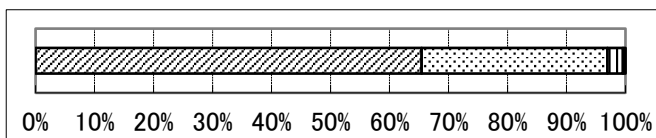
2 子どもがきまりを守れるように、しっかり指導している。



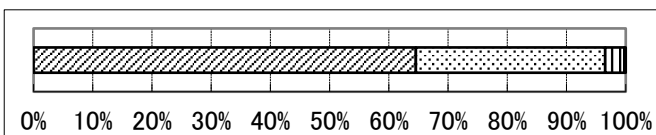
3 子どものよさ（能力や適性）を理解しようと努力している。



4 子どもたちの体験を重視したり、自分でよく考えられるようにしたりするなど、授業を工夫している。



5 分かりやすい授業を目指し、努力している。



【結果の分析と今後の取組の方向】

Ⅲについて

A B合わせた評価は、5項目とも昨年度並みで95%以上の数値でした。

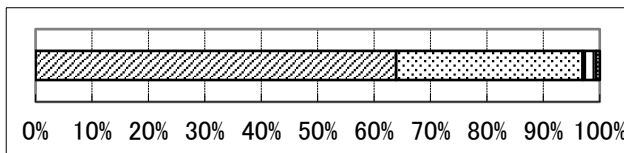
項目2「きまりを守る指導」については、A評価の数値がわずかに増加した一方で、項目3「子どものよさの理解」のA評価は、昨年度から5ポイントほど減少しています。B評価を合わせても3ポイントの減少となっています。

○項目1「悩みやトラブルへの親身な対応」については、子どもや保護者の気持ちに寄り添い、丁寧に耳を傾け、学校の方針を具体的に伝えるという基本的な姿勢を一層徹底できるよう、教職員の共通理解を図っていきます。

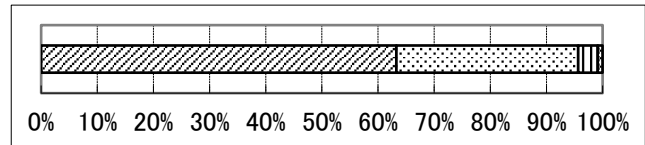
○項目2「きまりを守る指導」については、今年度は特に子どもの廊下やオープンスペースでの歩行について意を用いて指導に当たってきました。公共意識の向上は、単に規律の厳粛化によってもたらされるものではなく、授業での満足度や学級での関係性を如実に反映したものだという認識を教職員間で深めているところです。項目4「体験や思考を重視した授業の工夫」や項目5「分かりやすい授業への努力」と表裏一体のものであると捉えて、指導の質の向上に努めています。

Ⅳ 子どもたちの様子について 「うちの子どもは……」

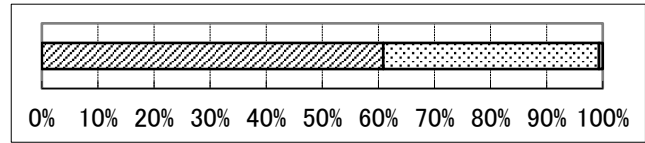
1 学校生活を楽しんでいる。



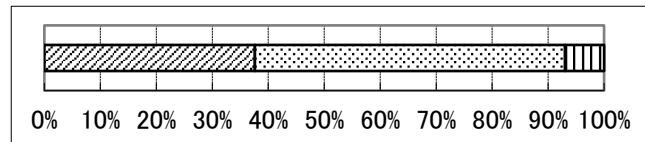
2 努力したこと，工夫したことを認めてもらっている。



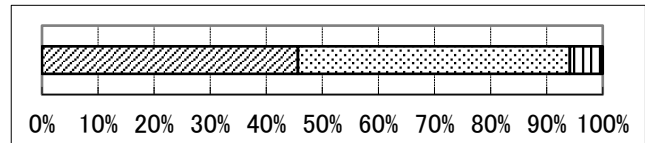
3 学校の約束やきまりを守っている。



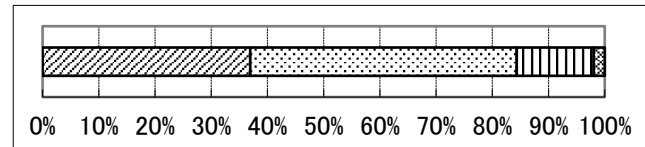
4 あいさつや礼儀が身に付いている。



5 学校で学習したことを理解している。



6 家族の一員として，お手伝いをしている。



【結果の分析と今後の取組の方向】

IVについて

項目6「お手伝い」以外の項目で、A Bを合わせた評価が90%を超えています。項目6以外は、いずれもA評価が昨年度から上昇傾向にあります。

項目2「努力や工夫の承認」では、A評価の数値が昨年度より4.5ポイント上昇しました。

項目3「約束やきまりの遵守」では、A評価の数値が昨年度より6ポイント上昇しました。A Bを合わせた評価も100%に届きそうな状況です。

○項目2「努力や工夫の承認」では、今年度の学校経営の重点である「各学年の強みを生かしたカリキュラム・マネジメント」について、教職員の共通理解が進んだ成果と捉えています。専門性の高い教員が、各自の授業実践において、教科の特質を踏まえて子どものよさを具体的に認めてきました。この取組が今後も子どもたちの心に響き、保護者にも成果として実感されるよう努めていく所存です。

○項目3「約束やきまりの遵守」では、年度初めから「教師と子どもがルールやマナーをともにつくって規範意識の向上に資する」ことを大切にしよう再三働き掛けてきたことが成果につながったものと見ています。教師から一方的に押し付けたルールやマナーは、子ども同士の関係性を悪化させる要因になることもある、ということ肝に銘じて、今後も取組を推進していきます。

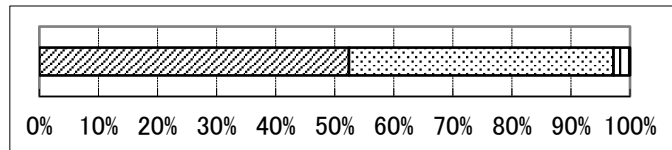
○項目4「あいさつや礼儀」では、A評価を上昇させることが必須だと考えています。躰としての挨拶よりも、相手との信頼関係やコミュニケーションの向上という姿勢を全面に打ち出した取組となるよう努力を継続していきます。

○項目6「お手伝い」は、コロナ禍の影響により、家庭内でも接触を制限している影響があるのではないかと推測しています。今後規制が緩和されていく中で、学んだことを家庭で実践しようとする意欲を高めることが、良好な結果に結び付けていくものと考えています。

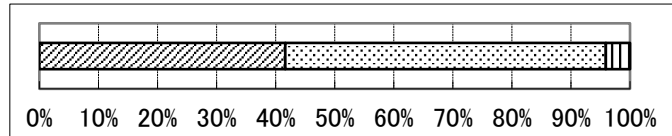
「目指す子ども像」に向かって

のびのび
(生活)

思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合って高まろうとする子ども

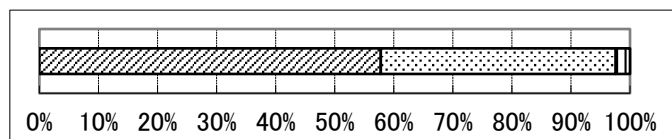


自分で判断して、正しい行動をつらぬく子ども

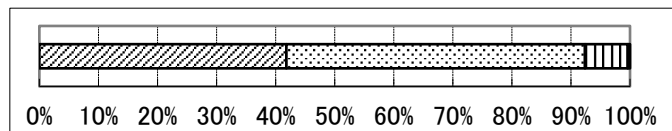


きびきび
(行動)

心身ともに健康で生き生きと活動する子ども

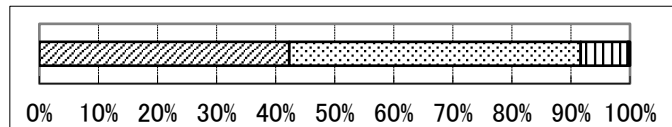


目標を持ち、最後まであきらめず努力する子ども

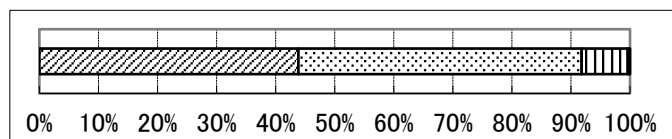


わくわく
(学習)

学ぶ楽しさを見だし、よりよいものを求めて工夫する子ども



自分の可能性を信じ、挑戦する子ども



ABを合わせた評価は全ての項目で90%を超えています。日々の授業実践や学校行事など、様々な場面で見取ることができた子どもの姿から、学校教育目標や目指す子ども像を具現していると思われるエピソードを職員会議資料や学校報で共有していることが、教職員の指導性にも反映した成果だと受け止めました。

教職員は、ともすれば豊富な経験から「こうあるべき」という観念が凝り固まりがちになりますが、上記の機会に多様な子どもの姿に学び、概念砕きを継続してきたことにより、子どもを見取る目が柔軟になってきました。その柔軟さが各教職員の指導性に反映し、自由で発想豊かな子どものよさが一層高まりつつあることを実感しているところです。

D評価に関する改善の提案等、記述欄の内容について

<記述欄からの抜粋>

○ホームページがスマートフォン対応になったことは見やすくなり、助かっています。学校からの連絡等もスマホのアプリからお知らせのようになると、保護者の皆様も確認やお返事など、迅速に対応しやすくなるのではと思いました。

<p>→円滑な連絡・相談体制を構築するために、欠席連絡や体調調べについては、この2月からスマートフォンアプリへの移行を開始しました。2月2日現在、全てのご家庭にテストメールが届くことを確認できています。今後一層の改善に向けて、保護者の方々の声に耳を傾けていくことにしています。</p>
<p>○先生方の対応には感謝の気持ちでいっぱいですが、コロナウイルス陽性者の有無を教えてもらえず、同居家族に陽性者がいるだけで土日でも自宅待機を強いられるのは厳しすぎると感じます。</p>
<p>→今年度も感染防止にご協力をいただいたことに感謝申し上げます。医療機関を有する大学の附属校であることから、「感染しない、感染させない」を合い言葉に感染防止に努めてきました。6月中旬以降は、秋田市教育委員会の判断基準に足並みをそろえるよう大学側から指示があり、そのとおりに対策を進めてきました。また、県内の感染状況や医局による状況判断を踏まえて、本校独自の対応をするなど、規制緩和に努めてきたことについてご理解いただければありがたいです。</p>
<p>○生鮮市場の駐車場で送迎している保護者、通学路ではない道を通って帰る子どもが多く見られません。きまりを守って登下校するよう学校から再度確認のアナウンスをしてほしいです。</p>
<p>→今年度は、こうしたことに関する苦情等が減少傾向にあり、大変嬉しく感じていたところでした。もしまだ、こうした状況が続いているのであれば残念なことです。本校では、徒歩又は公共の交通機関を利用した登校手段以外は認めていないこと、バス・電車通学の子どもに限り、個人で借りている駐車場や近隣に駐車をお願いできる親類・知人の家がある場合は、自家用車での送迎の許可証も発行していることを、今一度確認したいと思います。ご協力をよろしく願いいたします。</p>
<p>○学校はいじめを見過ごしているのではないかと、対応が甘いのではないかとと思われることがあります。厳正な対応を求めます。</p>
<p>→本校では、いじめ防止の最善の策として、1日の8割以上を占める授業の場において生徒指導の機能を働かせるよう務めています。具体的には、子どもたちの自己有用感を高め、共感的人間関係を涵養し、自己指導能力を育成することを通して、いじめの発生を未然に防ぐ取組を最重要視しています。それでも根絶に至らない状況にある場合は、管理職も含めて組織で事実の確認と情報共有に当たり、関係する子どもと保護者の方々の気持ちに寄り添いながら解決につながるよう、迅速な対応を心がけています。学校生活アンケートなどを通して、いじめに発展する可能性があるトラブル等についても見過ごすことなく早期に対応し、子どもや保護者の方々との相談を密にすることで事案の95%を解決しました(令和3年度から4年度にかけての実績)。全ての事案について、未解決事案の解決と、解決済みの事案も再発防止に向け、日々の状況把握に努めながら見届けを大切にしています。不十分であることのご指摘は真摯に受け止め、いじめや問題行動等の根絶に向けて、日々努力していきますので、今後も気になる点がありましたら、遠慮なくご相談ください。</p>
<p>○先生たちにいつもとても感謝しております。本人も、目指す子ども像を意識している様子が見られるので、適切な行動につながるよう応援したいと思います。</p>
<p>→行事等の振り返りシートに、「自律」や「のびのび きびきび わくわく」という記述が見られるようになっており、各学級担任が常に学校教育目標や目指す子ども像を意識し、子どもと共有できるよう努めていることが分かります。どんな小さな進歩も見逃さず称揚していきますので、ご家庭でも励ましてくださいますようお願いいたします。</p>
<p>○勉強についていけないようで、「学校は好きだけど勉強は嫌い」と言うようになりました。このままでは学校へ行きたくないと言わないか心配しています。</p>
<p>→子どもたちの理解の仕方は十人十色で、誰一人として同じ筋道を辿ることはありません。本校の研究実践では、このことを自明のこととして捉え、一人一人に最適な学習環境を提供できるよう努力しているところです。教室で「分からない」と言えずに困っている子どもがいるはずだ、という前提で、一層きめ細かに子どもの学習状況を見取り、一人一人の子どもに有効な手立てを探っていきますので、ご家庭からも遠慮なく相談や情報提供いただければ、全力で対応いたします。</p>
<p>○子どものノートを見て、授業の質の高さに大変感激しました。はとの子発表会では、合唱の素晴らしさに感動しました。コロナ禍での指導は大変だったと思います。子どもたちと向き合い、丁寧にご指導していただいていることに感謝します。</p>
<p>→学校教育目標「自律」を学習面から見れば、学習意欲の向上は最重要課題であると言えます。学習意欲は、子どものノートや学習シート、制作物に最もよく表出しますので、ご家庭でノートを丁寧にご覧いただいていることを、大変ありがたく思いました。学校行事については、専門家や医療機関が提供するデータに基づいて、適切なコロナ対応を図りながら、最大限、子どもたちの活動を保障するようにしています。ご理解いただいていることに感謝します。</p>

○オンライン授業の際に、マイク音声のミュートが徹底されず、私語や生活音が聞こえるなど、授業に集中できない状態があります。Teams には追い出し機能など害があると考えられる機能があり、子どもが使用できないようにしてほしいです。
→ICT活用については、技術開発が日進月歩の状況です。本校の教職員も、日々研鑽に努めていますが、十分な対応が図れていない場合があるかと思えます。年に数回の情報モラル研修会を、子どもや教職員対象で実施しているところです。はじめから厳正な規制を設けるよりも、使っていく中で失敗やトラブルを通して身に付けていくマナーやルールを重視したいと思います。特に、学級全体に支障が出るようなトラブル等については、迅速な対応を進めるためにも、気付き次第すぐに学校へご連絡くださいますようお願いいたします。
○学校は約束やきまりを守れるようきちんとご指導していただいていると思います。ただし、学校の約束やきまりの一部は、世間一般の約束やきまり、マナーやエビデンスと必ずしも一致しないようなものもあるので、子どもや保護者に理解してもらえるような工夫が必要かもしれません。
→本校の取組にご理解を示していただいたことに感謝申し上げます。学校と一般社会との間で、ルールやマナーに一致しない点があることは、できる限り避けたいと考えています。唯一異なる点があるとすれば、問題の要因に対して改善に向けた指導・支援を進めることはあっても、機械的に排除する発想が学校にはないことです。全ての子どもたちの学ぶ権利を保障しながら、子どもと保護者、学校とが、マナーやルールの重要性をともに理解して教育活動を進めていけるようにしたいと考えていますので、ご理解いただきたいと思えます。

附属小学校の教育を語る会でいただいたご助言から

2月上旬に、第2回学校評議員会と兼ねるかたちで、附属小学校の教育を語る会（附属学校地域協働協議会小学校部会）を開催し、学校評議員、教育後援会理事長、PTA三役の方々から、本校の教育活動を一巡後、たくさんのご助言をいただきました。主な内容をご紹介します。これらについても、今後の教育活動の一層の充実に向けて役立てていきたいと考えています。

<授業の様子について>

- ・子どもたちは授業にのびのびと参加している。それは教師がそうさせている。
- ・1年生も学習態度が立派になっていた。2年生も、友人の発表をよく聞いて素早く反応ができていた。3年生は聞き方や、ノートの取り方が自分なりに工夫していた。4年生は好奇心が旺盛であった。5年生は、学習課題に悩みながら考えを深めていた。6年生は、黙考して考えるような姿勢がすばらしかった。
- ・生き生きと楽しそうだなあという印象をもった。先生方も視点を変えていろいろな取組をしていることが分かった。
- ・タブレット端末を活用するようになったので、机の広さや電源等が心配になった。
- ・自分の頭の中のイメージを広げ、共有していく過程が素晴らしい授業があった。じっくりと考えを育んでいく過程を大切にしてほしい。
- ・オープンスペースであるため、隣のクラスの議論する声が響いていることが気になった。

<学校経営全般について>

- ・困り感や悩みを抱えている子どもに対する周囲の子どもたちや保護者の寛容さが大切だ。共に育っていくためには、他の子どもを認める力が必要である。
- ・「はとの子だより」の運動会の記事を読んで、ピンチをチャンスに変えたのだと感じた。これからも行事を新たなかたちで見直していけばよいだろう。
- ・いじめ等の問題行動への対応には、いじめ対策委員会を通して大学の専門の先生方も加わって指導を受けながら、学校と関係機関のチームで対応していることを、もっと発信してほしい。
- ・公開研究会などにおける授業の素晴らしさが全国に発信されている。
- ・学校報は、おじいちゃんやおばあちゃんが読んで学校の様子が本当によく分かる。
- ・学校で問題が起きると、小学校の時は親も必死になってしまう。親の方も冷静にならなければいけないと感じた。自分の子にも非があったのではないかと考える冷静さが保護者には必要だ。